

ときめき人

Tokimeki bito



森づくりは 人づくり 古里の原風景を 未来へつなぐ

東和町・米川2区

遠藤 克美さん

えんどう・かつみ
1959年生まれ 血液型/O型

Profile

東和町出身。上沼農業高校卒業。1978年、米川生産森林組合に就職。以来38年間、地域の林業振興に注力してきた。昨年は、平成27年度宮城県緑化功労者として表彰されている。28歳で結婚し、3人の子宝に恵まれる。現在の楽しみは、初孫晴道くんの成長を見守ること。

「小さい頃から、山菜やキノコを採ったり、沢で遊んだりしていた。お世話になった古里の自然に恩返しをしたいと考え、自然に携われる仕事を選んだ」と話す遠藤さん。

高校卒業後、米川生産森林組合に就職。組合が所有する928㌔(東京ドーム約198個分)の広大な森林を計画的に伐採・植林しているほか、シイタケやマイタケなどの特用林産物の生産にも携わり、町の特産品に押し上げた。キノコ狩りや植林体験など、一般の人が森林と触れ合えるイベントも開催している。

これらの活動が評価され、9月に秋田県で開催された東北・北海道地区緑化推進協議会で緑化功労者として表彰された。

「近年、子どもたちの遊び場は屋外から屋内に変化し、自然への関心が薄れてきている。森は酸素をつくったり、水を貯留したり、生活と密接に関わっていることを学んでほしい」と、環境教育の重要性を説いて小学校に掛け合った。今では年10日間程度、自身が講師となり授業をし、子どもたちに自然の大切さを教えている。

「森づくりは人づくり。木は、植林してから伐採まで約80年かかる。森づくりは、一代で完結する仕事ではないので、次世代の担い手をつくるのが大切。人が育てば、森も育つ。私たちの生活に欠かせない森のファンを増やしたい」と笑顔で話す。

遠藤さんの森づくりは、これからも続く。

編集後記

▼ズームアップ、佐々木瑞生君の取材を担当。お世話になった地域の人たち、先生や仲間への感謝の気持ちを話してくれた。そこであらためて気付いた。みんな誰かに支えられていることを。家族、職場の人たち、仲間、市民の皆さん。いつも本当にありがとう。(及川)

▼産業フェスティバルの取材に行ってきました。当日は多くの家族連れなどでにぎわいました。なかなか知ることができない登米市の企業の仕事などに多くの子どもたちが興味を持ち、見たり、触れたりして体験を楽しむ姿が印象的でした。(千葉)

▼10月16日、佐沼秋のフリーマーケットの取材に行きました。当日は、薄着でも暑いくらいの天気にも恵まれ、これまで最多の人たちが訪れました。フリーマーケットは、洋服、生活雑貨やおもちゃなどが販売。集客力の秘訣は、子どもからお年寄りまで楽しめることにあると思います。(田代)



モバイルとめ

(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<http://tomecity.mail-dpt.jp/>

